

日 時：平成 28 年 1 月 19 日（火） 18 時 30 分 ～20 時 00 分

場 所：光城コミュニティセンター

対象地区：光城

参加人数：9 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○ゴミの収集箱について (市民からの要望・質問)</p> <p>現在、町会にあるゴミの収集箱は、市から無料で配布されたもので非常にゴミの出し方も便利になってカラスの被害も無くなった。近年、収集箱の傷みが激しく、特に屋根の部分剥がれている。こういった場合には、町会負担で修繕することになるのか。</p> <p>(市の回答)</p> <p>無料で配布した木製のゴミ収集箱については、経済対策の一環として市内の木工・建築業者の雇用の機会を増やすことも目的として作成し、配付した経緯があります。現在では、鉄製の収集箱にするなど各町会で工夫してやっているところもあるので、市で更新することは今のところ考えていません。コミュニティの助成金などを活用して対応してほしいと思います。</p>
<p>○町会の新規加入者について (市民からの要望・質問)</p> <p>町会に新しく加入した世帯があれば、総務課からゴミ袋や紙ひもなどが配付されているが、渡しに行くと、ゴミの出し方を尋ねられることがある。現在は私が市民課へゴミの出し方のパンフレットをもらいに行き配付しているが、今後はゴミの出し方のパンフレットも同封してほしい。</p> <p>(市の回答)</p> <p>ゴミの出し方のパンフレットについて、配布に向けて検討したいと思います。</p> <p>(市民からの要望・質問)</p> <p>あと、町会に加入した日と公達員の配付日との兼ね合いで、広報などの市の情報がだいぶ遅れる場合があるので、その月の広報もお願いしたい。</p> <p>(市の回答)</p> <p>広報についても、実施したいと思います。</p>

○旧平賀病院の解体・新庁舎の建設について

(市民からの要望・質問)

旧平賀病院の解体はいつごろから始まるのか。市長のあいさつにもあったが新庁舎については、現在の庁舎を補修するのか、新築するのか。新築する場合は、場所が決まっているのか教えてほしい。

(市の回答)

新庁舎については、以前から検討されてきたわけですが、新しく建てる方向で進めてきています。今年度中に建てる場所と規模を決めて、平成 28 年 4 月以降から庁舎の基本設計に入っていく段取りとなっています。建てる場所によって、解体にも影響が出てきます。建設候補地の一つである旧平賀病院の場所に建てるとなれば、解体費用に約 2 億円かかる予定です。建設場所に決まれば、来年度中に解体の設計を組んで、早めに解体することになると思います。規模に関しては、庁舎のあり方に関する検討委員会の答申も受けておりますのでそれを基にしながら、また、庁内のワーキンググループでも県外へ視察に行っております。また、議会でもどういった建て方が良いのか視察調査してくるそうです。予算のこともありますので、これらのことを総合的に判断しながら考えていきたいと思っております。

合併特例債を使うとか基金があると申しましたが、これから小学校の改築が次々とあります。また、文化センターの改修、体育館、運動施設と、どんどん進んでいきますので相当な事業費となります。さらに、資材・人件費の高騰により平米当たりの単価も上がってきていて非常に状況は厳しいです。

さまざまな状況をみながら進めさせていただいておりますので、ご理解をいただければと思います。随時、情報を市民のみなさんへ流してご意見を伺いたいと思っております。

(市民からの要望・質問)

このような大きな事業については、市内の業者では無理だと感じる。市外、県外の業者になると思うが、どのようにして業者が決定していくのか教えてほしい。

(市の回答)

発注方法については、これからの話になります。できれば地元の業者に入ってもらいたいと思いますが、これだけの規模になると地元の業者が元請けになることは無いと思います。一番現実的な考えとしては、大手企業と地元の業者がジョイントベンチャーを組んで一緒にやる。そうすれば 3 割ぐらいの比率で地元の業者にお金が入ってくることとなりますので、そういったやり方を検討していきたいと思っております。

発注方法について今日も話し合っていたのですが、例えば、建築だけの発注、設備工事だけの発注、電気工事だけの発注といった分離発注をすれば、契約事務は複雑になりますが、地元の業者が入りやすくなるのではないかと考えて検討しています。

旧平賀病院の場所に建築すると決まれば、平成 28 年度中に解体しないとその後の建築スケジュールが厳しくなります。平成 30 年度から本体工事を開始し、平成 32 年度中には工

事が完了し、引っ越しも終わる予定です。

(市民からの要望・質問)

市内の業者が元請けになる可能性は少ないと。

(市の回答)

元請けになる可能性はほとんど無いです。これだけの規模の工事となると、技術者が何人いなければいけないとか国の基準がありまして、地元の建築関係の業者はなれないと思います。小和森小学校の改修工事でも市内の業者が元請けになることはできませんでした。

○新庁舎の設計について

(市民からの要望・質問)

現庁舎については、正面から階段を上っていかなければならないし、高齢化が進むなかバリアフリーが必要だと思う。昔の話をしてもなんだが何でこういう形にしたのか。旧平賀病院も同じである。利用者は非常に不便と感じているので、庁舎としての利便性を考えてシンプルな設計にしてほしい。

(市の回答)

当時としては、非常に斬新な設計であったのかもしれませんが、今の高齢者が多くなってきている社会には合わない建物であると私も思います。

庁舎を改築することにした理由として耐震基準の問題が一番ですが、そのほかに、エレベーターはあるものの階段の上り下りを解消したいこと、受付に行けばどの窓口に行けばいいかわかるようにし、また、市民のみなさんがよく行く窓口を一階に集中させたいという考えからです。このような考えからわかりやすい新庁舎を検討しているので、その点は新しい庁舎に関しては心配ないと思います。

○平賀駅前のイルミネーションについて

(市民からの要望・質問)

年末から年始にかけてイルミネーションが灯されましたが、市の企画で行ったものですか。あまりにも幼稚で芸術性がないと思います。もっと楽しめるような形とか配色とか、夢のあるようなイルミネーションを考えていただきたい。

(市の回答)

このイルミネーションの事業は、地方創生の先行型交付金を使って行いました。LEDの電球代、取り付け・撤去費用を合わせて1,500万円から1,600万円程度になっています。今後も続けていきますので、来年度からは取り付け・撤去費用のみとなります。

飾り付けの仕方に関しては、2社からの応募があり選考して決めました。飾り付けはなかなか難しいようで、街路樹があればやり易いようですが、建物には釘を打たなければなら

ないので、四角形にしか取り付けられない場所もあり、あのような飾り付けになりました。来年度に向けて検討していく予定です。今年も市でできない部分を青森銀行や個人の商店のみなさんは自分たちでやってくれました。来年もご協力いただける方々にお願いと同時にまた違った形で実施できないか知恵を捻り出して検討していきたいと思ひます。

○ふるさと納税の事務処理ミスについて

(市民からの要望・質問)

10日ほど前の新聞に、ふるさと納税の事務処理ミスにより個人情報漏れたと載っていたが。

(市の回答)

12月に入って急激に1日200件以上のふるさと納税の申込みがきて、担当者も余裕がなくなつてしまい最後の送付の際の確認をしなかつた単純なミスでありました。これからはこういったミスが無いよう注意しながらふるさと納税に対処していきたいと思ひています。

1月からは新年度の納税となるので、現在は1日30件程度に落ち着いてきています。現時点ではおそらく青森県内で一番ふるさと納税をしていただいていると思ひます。

ふるさと納税から3割分お返しをして、あとは送料とふるさとチョイスというホームページに情報を掲載してもらっているので13%の手数料を払っていますので、市に残るのは半分くらいです。1億5,000万円納めてもらえば7,500万円を様々な事業に使えることとなります。

全国47都道府県から納税がきているので、普段、平川市のりんごが行かない場所にもりんごが届いています。また、ふるさと納税でもらったりんごが美味しかったということで、農協へ購入したいとリピーターがきています。

本来のふるさと納税の目的からは外れてきましたが、地元の特産品を全国へ発信する効果はあると思うので、これからも品揃えをうまく調整して納税をしてくれる方を増やせるよう取り組んでいきたいと考えています。

○国民健康保険について

(市民からの要望・質問)

県内各市町村の国民健康保険がほとんど赤字なのに、平川市は黒字だと新聞に掲載されていた。これからも続けていけそうなのか。

(市の回答)

国民健康保険税の保険料率は去年から上がっています。そして去年の実績として黒字となっています。

これまでは各市町村が財政に責任を持って運営していたが、平成30年度からは県が一本化で財政運営を担うこととなります。市町村へは保険料を確実に確保するという役割分担

がされることとなります。基金が2億ぐらいあると思うのでそれまでは今のままいけると考えています。

高齢化が進むにつれて医療費が多くなるので、どうしても保険料は上がってしまいます。市町村によっては、持ち出しが多いところもあります。

運営母体は県になりますが、それぞれの市町村での収納率、ジェネリック医薬品の利用率、健康診断の受診率によって努力した市町村へは褒賞のようなものを出すようです。平川市は収納率が良いので、県からは良い団体と思われているようです。

平川市は健康診断の受診率、ジェネリック医薬品の利用率もかなり良い方です。

国民健康保険料というのは、74歳以下の国民健康保険加入世帯の年間の医療費にかかわってきます。その医療費の一定分を受益者負担として保険料を納めてもらっています。

前年の医療費が安ければ保険料も低くて済むことになり、県内でも市町村ごとに違いがあります。予防を徹底して重病化を防ぐとか、早期に対応していくことで結果として国民健康保険料も安くて済むことになるので、健康づくりを進めて医療費がかからないような施策を実施していかなければならないと思っています。

○市民一人当たりの借金について

(市民からの要望・質問)

国は国民一人当たり何百万円も借金があるとのことだが、平川市はそういった借金はあるのか。

(市の回答)

国は一人当たり800万円、平川市は一人当たり40万円くらいの借金になります。これから5年間で庁舎建設等の様々な事業を行っていきませんが、全て合併特例債という起債なので若干は増えていきますが、それからまた減っていくこととなります。ピーク時でも一人当たり50万円はいかないという推計となっています。

平成31年が起債残高の一番のピークで143億円、それから段々下がって行って平成35年には起債残高が100億円を切る見込みとなっています。ただ、推計した時点より庁舎建設の単価が上がってきているので、起債残高がもう少し多くなると思われます。

○人口減少に対する対策について

(市民からの要望・質問)

平川市に住んで23年になるが、住んでみるとここは日本一だと思っている。住みやすく緑があって。転入者を増やすために、もっとPRする必要があるのではないかと。

まず光城。こんな立派な団地はない。平川市には「こんな団地があります」「こんな施設があります」と、ふるさと納税をした人に写真付きのパンフレットでPRしてはどうか。

平川市に住んでも仕事はあるのかという問題もあると思うが、電通の人から聞いたことで会社名は言えないが、平賀の小さな企業だが非常に注目されている会社があるようである。そういった情報をつかみ、大きくしていけば仕事や人口はすぐに増えていくと思う。

(市の回答)

もっともっとPRしていきたいと思います。平川市は住みやすいというというのは徐々に周知されてきています。東洋経済新報社が全国 813 市区の住みやすさランキングを出しているのですが、平川市は全国で 85 位、県内の 10 市の中で 1 位、東北・北海道でも 7 位となっています。「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準の充実度」の 5 つの項目で調査していますが、平川市は「安心度」「住居水準の充実度」が高くなっています。「富裕度」は低くなっています。

県内でも雪が少なく除雪も良いし、教育環境も良いので、平賀地区の中心部には住んでくれている方が多くいますが、市全体で見ると東部地区や碓ヶ関地区もあるので年間 300 人ぐらいずつ減っています。若い世代も、高校が終わって県外の大学に行くとそのまま県外に住んでしまう人が多く、人口は減ってはいますけど、小和森小学校の周辺などの宅地開発も進んでいますので、平川市に住んでくれる人が徐々に増えている部分もあります。

子育て支援に関しても、第 2 子以降の保育料無料化もありますし、3 年前から実施している子育て住宅支援補助金では子育て世帯が住宅を建てる場合 40 万円、地元の業者が建築する場合 20 万円上乗せして 60 万円助成しています。これまでの 3 年間で 120 件助成し、この中で市外からの転入は 25 件でありほとんどが市内の方となっています。もっと転入者を増やしたいということで、平成 28 年度からは市内の子育て世帯については減額し、市外からの転入者へは増額したいと計画しています。市外からの呼び込みをすることによって、人が増えてくれば住民税も固定資産税も交付税も入ってくる。同時に人口が少なくなると地域が衰退していくので、できるだけ減少率を低くおさえていこうという施策をしていこうと思っています。

(市民からの要望・質問)

私の息子も高校を卒業して県外で就職をしている。平川市へ戻って来たいという気持ちはあるが、安定した仕事がないため戻って来られないでいる。

(市の回答)

一番の問題はそこである。安定した仕事づくりというのは、地域に根差した安定した仕事づくりになります。もちろん農業も入ってきますが、それ以外の 2 次産業、3 次産業を何とかしたいと思っています。ただ、今は企業誘致は難しい時代で、今ある様々な企業を支援しながら大きくして、雇用を増やせないか企業の関係者とも話し合っているがなかなか難しい状況です。それでもやっていかなければならないので、担当部局と協議しながら、できるだけ平川市に残っていけるよう雇用の場を作りたいと考えています。

他には、弘前市には失礼な話になるかもしれませんが、弘前市で仕事をして平川市に住むという広域的な考えもあります。弘前市には工業団地もあるので、そこで働いていただいて、平川市は地価も安いし暮らす環境は良いと思うので住んでもらいたいという思いはあります。

それでも平川市の産業を育てていくことが第一ですので何とかしたいと考えています。

(市民からの要望・質問)

私としては、光城に対して満足です。雪も片づけてくれるし、私もだいぶ歩いてみたがこんな親切なところは、他には無い。

(市の回答)

今、光城団地のような大きな団地を作るのは難しくなっています。第2期の国営の土地改良事業の制限で、今までは可能であった緩和区域の宅地化が難しくなりました。それを許してもらわないと、建てたい人がたくさんいても建てることができないので、県と相談して解決策を探っているところです。

人口減少というのは、出生と死亡の自然動態ですので、年間約 400 人から 450 人の死亡があり、出生は約 200 人です。これだけで 200 人以上減少しています。それに転入・転出で 100 人から 150 人減少し、合計で年間 300 から 350 人ずつ減少しているのがここ何年かの傾向です。

総合戦略の中で、人口減少を抑えるにはどうしたらいいかとなると、1つは、できるだけ健康な状態で寿命を延ばすことができないか、それから、産まれる子どもの数が少なくなっているのを増やせないか、それから、平川市に魅力を感じて転入してくる人をどうしたら増やせるか、それから転出、特に高校・大学の卒業後の進路において転出される方が多いがどうすれば地元で定住させることができるかどうか、という4つをそれぞれ考えて進めているわけです。その中でも特に子どもの出生数を増やすことについては、出会いから始まって婚姻となるわけですが、最近は結婚しないという選択や晩婚化の傾向にあるのでどのような対策を進めていくのか、あるいは、転入を増やすにはどのような対策を進めていくかが大きな柱となっていますので、ここ5年間はそういったところに注力して進めていくことになると思います。

○農産物加工センターの活用について

(市民からの要望・質問)

光城三丁目にある農産物加工センターについて、県の施設であると聞いたが、今は活用しているのか。もし活用できるとしたら、老人クラブ等で何か作ることができるのか。

(市の回答)

あれは県の施設で、国の補助を受けて建てた加工センターなのですが、これまで県と協議を進めてきた結果、平成28年4月1日より市が譲り受けることになりました。建物は無償ですが、土地については、以前に平賀町から県へ売却した経緯がありますので買い戻すこととなります。

今後は、加工をやっている方々に利用してもらうということで計画を立てています。県で使っていたときは、試験・研究センターだったので作ったものを販売できなかったの

すが、今後は保健所の許可を受けて、作ったものを販売できるような方向で進めています。
県との引き継ぎ等があるので、利用開始は5月以降になると思います。

(市民からの要望・質問)

例えば、市の特産品とかを作ることになるのか。

(市の回答)

できればみなさんであの施設を使いながら開発していただければいいと考えています。

(市民からの要望・質問)

平川市で結構グラウンドゴルフ大会をやっている。1回の大会に200人から300人ぐらい集まってきましたし、参加賞としてそこで作られた特産品を出せば平川市のPRになって良いと思いました。

大鰐町でのグラウンドゴルフ大会では、特産品ではないが、マルシチの醤油や味噌を参加賞として出していた。非常に町のPRになっていると思うので、平川市の特産品を出してPRするのは良いと思う。

(市の回答)

グラウンドゴルフ大会は、県内いたるところからきているので良いPRになると思います。

○グラウンドゴルフ大会について

(市民からの要望・質問)

現在、グラウンドゴルフ協会としてグラウンドゴルフ大会を開催しているが、市のイベントとして商工会等と一緒に大々的にできないか。

(市の回答)

今の段階では、尾上の野球場とサブグラウンドを使ってしかできませんが、運動施設が完成すれば500人規模の大会はできると思います。そうなれば、様々な大会のあり方を検討していくことになると思います。

運動施設の整備が完了し、全面的に使えれば、大きな大会もできると思うので、それまでのような形の大会が良いのか検討していきたいと思います。

○融雪溝の修繕について

(市民からの要望・質問)

融雪溝の止水板とか網を春先に上げて、横に掛けておく為のフックがあるのですが、そのフックが錆びて破損したり、曲がっているところがある。また、水を逃がすためのプラスチックの板も破損しているところがある。今後ますます増えていくことになると思うが、

そういった破損個所を調べて市へ報告すれば修繕してもらえるのか。

(市の回答)

融雪溝の破損等については、今までに無かった新しいケースです。町会負担ですべてを直してくださいというのは厳しい話ですので、土木課へ話をして対応を協議したいと思います。

ただ、修繕の時期については、破損個所をその都度直すということは出来ないと思います。例えば今回はこの路線を全てやるとか、そういう修繕の仕方になると思いますので、町会の希望の時期と食い違いは出てくるとはと思いますが、ご理解をいただきたいと思います。

(市民からの要望・質問)

あと、融雪溝の止水板が最初から無いところもある。最初から無いのか途中で無くなったのかわからない場所もある。各箇所の止水板の高さを確認できないか。

(市の回答)

恐らく最初はあったと思います。また、各箇所の高さは測って確認することができます。

よくあるのは、止水板を取れば水の流れが速くなり雪が流れていくので勝手に取ってしまう人がいる。それで紛失するケースがある。

○融雪溝の水の管理について

(市民からの要望・質問)

融雪溝の水について、12月の末にポンプアップしていたが、今はその当時の3分の1ぐらいしか水が来ていない。ポンプを2つ動かしたらブレーカーが落ちてしまう。負荷が掛かり過ぎて壊れる可能性もあるとのことで、今は1つしか動かしていない。また、ポンプで上げない自然水を使っている融雪溝もあるのですが、水が少なくて年間10回ぐらい苦情が来る。簡単に解決はしないと思うが、水を増やす方法はないか。

(市の回答)

通常、寒いときは水位が下がる傾向にあるが、今年のように暖かい冬に水が足りないのは解せない。

(市民からの要望・質問)

もともとの水量が足りない。光城だけの問題ではないと思う。

(市の回答)

改良区の関係や、水門の調査をさせていただいて、後ほど回答させていただきたいと思っています。

○LEDの防犯灯について

(市民からの要望・質問)

LEDの防犯灯の工事があって、光城は9割方終わっているようです。総務課へ申告し忘れた箇所があって追加をお願いしたら、追加分は町会負担にしてもらわなければいけないと言われた。プロがやっているのに漏れは無いと思うが、工事が全て終わった段階で、漏れがあった場合には市の負担で直してもらえないか。現時点で、少し離れた場所の防犯灯がまだ2,3か所工事がされていない場所がある。

(市の回答)

現時点で工事されていない箇所は確認しています。まだ工期も残っていますので進捗状況と共に業者へ確認していきたいと思います。